

ちよふるみち 千代の古道

— 平安時代、嵯峨院（大覚寺）への道 —
梅宮から広沢の池、嵯峨大覚寺に至る府道に「千代の古道」の道標が立てられています。古代嵯峨野は神聖な葬送の地であり、多くの古墳が残された地域です。また、平安時代には藤原定家らが歌に詠んだ、嵯峨院（大覚寺）へ通じる貴族の遊覧の道ともなっていました。往時を偲ぶ道すじをたどり、美しい嵯峨野の風景を楽しみながら古墳等の遺跡、文化財を巡るウォークルートをご案内します。



おすすめウォーキングルートご案内

松尾駅	スタート
約12分	
梅宮大社	
約25分	
齋宮神社	
約13分	
甲塚古墳	
約11分	
遍照寺	
約1分	
稲荷古墳	
約3分	
兒神社	
約20分	
大覚寺	
約2分	
大覚寺(バス停)	ゴール

齋宮神社 (さいくうじんじや)

伊勢神宮に奉仕する齋宮のために有栖川の辺に野宮を建て、精進潔斎をした旧跡と伝わります。嵯峨野の「野宮神社」と「斎明神社」、西院の「西院野々宮神社」と並んで市内に残る四つの野宮跡の一つです。

梅宮大社 (うめみやたいしや)

松尾大社とともに酒造の神として信仰される奈良時代創建の古社。嵯峨天皇の皇后が祈願したとされる「またげ石」があり、子授、安産のご利益でも有名です。

寄り道ルートの見どころ

千代の古道周辺には、有数の歴史を持つ神社やパワースポットとして人気の神社、四季折々の庭園が美しい寺院等、魅力ある社寺がたくさんあります。ちょっと足をのびして京情緒豊かな名所を訪れてみてはいかがでしょうか。

車折神社 (くるまぎしんじや)

後嵯峨天皇の牛車の引輪が社前で折られたことからその名前がついたといわれます。境内には芸能神社もあり、多くの芸能人が祈願に訪れます。

直指庵 (じきしあん)

創建した独照性円が「直指人心」の禅の教えを守り、寺号を定め直指庵と称しました。孟宗竹の美しい竹林や紅葉が楽しめる北嵯峨の隠れた名所です。

松尾大社 (まつおたいしや)

酒の神として知られる神社で京都盆地の西一帯を支配していた秦氏により創建された神社です。境内には水が酒に変わったという逸話がある「亀の井」や「お酒の資料館」もあります。

鹿王院 (ろくおういん)

足利義満が創建した禅寺。山門の「筑雄山」の扁額は義満が24歳の時の揮毫です。四季折々の風情が楽しめる参道や嵐山を借景とした枯山水庭園も人気です。

大覚寺 (だいかくじ)

大覚寺から徒歩約13分!

※私有地へ入る際は許可が必要になります。



大沢池 附 名古屋滝跡 (おおさわのいけ つけだり なごそのたきあと)

国の名勝指定。「滝の音はたえて久しくなりぬれど 名こそ流れて 尚聞こえけれ」藤原公任(ふじわらのきんとう)の百人一首で有名な名古屋の滝の石組みが残っています。

大覚寺 (だいかくじ)

嵯峨天皇が建立した嵯峨院を改めた寺院。歴代の天皇や皇族が院政を行った門跡寺院であるため嵯峨御所とも呼ばれました。御所跡は史跡指定されています。

兒神社 (ちごじんじや)

998年に没した遍照寺開祖寛朝僧正の死を嘆き、後を追って広沢池に身を投げた侍の霊を祀ったといわれる神社です。

遍照寺 (へんしょうじ)

宇多天皇の孫にあたる寛朝僧正が山荘を改めて創建した寺院で、かつては広沢池を中心に広大な寺域を有していました。8月には広沢池で灯籠流しが催されます。

嵯峨七ツ塚古墳 (さげしづつちかふん)

広沢池から大沢池の間に、現在6基の円墳が残っています。田園風景の中に点在する墳丘を探索しながら古墳巡りを楽しめる一帯です。(※私有地)

印空寺古墳 (いんくうじこふん)

一条山越通り近くの印空寺の境内にある古墳。樹木におおわれた独特のこもりした形状を道路からも確認できます。(※私有地)

広沢古墳群2号墳 (ひろさわこふんぐんにかうふん)

広沢古墳群3基のうちの1基で、堀川高校グラウンド北東隅に巨石を用いた横穴式石室が現存しています。広沢池南側の道路からもその外観を確認できます。(※私有地)

甲塚古墳 (かぶづかこふん)

大覚寺古墳群の1号墳。淳和天皇皇后 正子(せいし)の陵墓とされる約50mの円墳です。横穴式石室が完存しており、石室の一部が墳丘に露出しています。

千代の道古墳 (ちよのみちこふん)

古墳時代後期の円墳。ほぼ完存していますが、マンションに囲まれたみつけにくい場所にあり、その形状もはっきりと確認できません。

大沢池 (おおさわのいけ)

▲中国(唐)の洞庭湖を模して造られたといわれる日本最古の林泉式庭園です。平安時代の姿を今に残す風光明媚なその景色は、日本三大名月観賞地としても知られ、中秋の頃には親月の夕べが開催されます。池畔の景観

心経宝塔 (しんけいぼたう)

▲中国(唐)の洞庭湖を模して造られたといわれる日本最古の林泉式庭園です。平安時代の姿を今に残す風光明媚なその景色は、日本三大名月観賞地としても知られ、中秋の頃には親月の夕べが開催されます。池畔の景観

広沢池 (ひろさわのいけ)

遍照寺が建立されたときに造られたとされ、当時は「遍照池」と呼ばれていました。古代から親月の名所として知られ、王朝人の遊覧の地でもあったこの池は、あまりの風景の美しさから西行や藤原定家らの和歌にも登場しました。池畔にある観音島の入口には遍照寺旧境内の説明板があります。

観音島 (くわんおんじま)

▲観音島

入道塚陵墓参考地 (にゆうどうづかりょうぼんさうち)

大覚寺古墳群の2号墳で、淳和天皇の皇子 恒貞親王(つねさだしんのう)の陵墓とされる参考地。石室の巨石むきだしの姿で保存されています。

稲荷古墳 (いなりこふん)

遍照寺の北門横にある古墳。約20mの円墳に、富岡大明神の朱い鳥居と頂部に稲荷が祀られています。

狐塚古墳 (きつづかこふん)

府道29号沿いの竹林にある円墳です。大きな石室の下に開いた十数センチの穴から石室内部の様子を見ることができます。(※私有地)

甲塚古墳 (かぶづかこふん)

植木屋さんの敷地内に保存されている墳墓で、丸く高く兜の形をしているのでこの名前がついたといわれます。秦氏・首長墓の系譜をひく古墳と考えられています。(※私有地)

千代の古道



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

嵯峨野「千代の古道」周辺の発掘調査

山背遷都に多大な貢献をする渡来系氏族・秦氏は葛野大堰を築き、太秦を基盤に農耕や養蚕の技術を伝え、大いに栄えました。そして聖なる嵯峨野の地に古墳を次々と造りながらその勢力を拡大して行きます。嵯峨野の葬送地に至る美しい景観を持つ古道は、嵯峨院(大覚寺)の造営と共に、貴人たちが往還する遊覧の道へと変化して行きました。秦氏が活躍し、貴族遊覧の地となった嵯峨野の、土の中に残された文化財の一部をご紹介します。



1 菖蒲谷遺跡

旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代の石鏃など多数の石器が発見されました。石材にはチャートやサヌカイトが利用されています。



▲ 石鏃



▲ ナイフ形石器

▲ 石匙と石鏃

4 史跡 遍照寺旧境内建物跡(京都市指定史跡)

平成4年に基壇の確認調査が行われ、一辺12m、高さ0.7mの方形基壇に一間四面の御堂が確認されました。平成5年4月に京都市の史跡に登録されています。



▲ 調査前風景



▲ 発掘調査全景 ▲



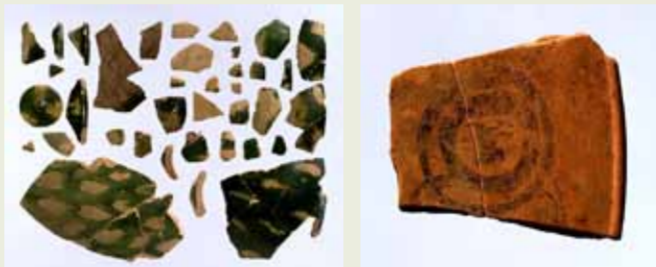
▲ 建物基壇検出状況

2 梅ヶ畑祭祀遺跡

平成9年、丘陵頂部から尾根筋にかけての平らな面で奈良時代から平安時代前期にかけての祭祀に関わると考えられる遺構、遺物が発見されました。大きな岩塊を中心対象とし、その周辺に二彩陶器、仏像の墨書土器、仏画線刻、石製品や須恵器の壺、灯明皿等が多数出土しています。



▲ 梅ヶ畑祭祀遺跡全景



▲ 梅ヶ畑祭祀遺跡出土遺物

<用語解説>

- ・剥片・石核(はくへん・せっかく)
石塊から割り取られた薄い石片が剥片で、残った本体の方を石核という。
- ・ナイフ形石器
剥片を用いてナイフ形に仕上げた先のとがった石器
- ・石鏃(せきぞく)・・・石の矢じり
- ・石錐(いしきり)・・・石製の穴をあける道具
- ・石匙(いしさじ)・・・動物の皮を剥く道具

3-A 史跡 大覚寺御所跡(平安の池及び建物)

大覚寺御所跡内では数度の発掘調査が実施され、平安時代の池遺構、建物、溝等が検出されました。江戸時代まで5時期の遺構群が判明しています。



▲ 発掘調査全景



▲ 池検出状況

6 西野町遺跡

古墳時代を中心とする集落遺跡。嵯峨野小学校内の調査では竪穴住居等が発見されました。その後、古墳時代前期、飛鳥時代～奈良時代、平安時代～中世等各時代の遺跡が重複する複合遺跡であることが判明しました。また、飛鳥時代～奈良時代の瓦も多数出土していることから、付近に寺院があった可能性もあります。



▲ 竪穴住居検出状況



▲ 掘立柱建物検出状況



▲ 発掘調査全景(平安時代)



▲ 御所内発掘調査全景

7 松室遺跡

松尾大社の南東約500mの、松尾中学校建設時に発掘調査が行われ、弥生時代～飛鳥時代の竪穴住居が多数検出されました。また、「葛野大堰」の分流と考えられる大溝も発見されました。



▲ 大溝・・・葛野大堰の分流か？



▲ 竪穴住居

3-B 名勝 大沢池附近古曽滝跡

庭園の整備事業に伴い、陸部から菊の島にかけて発掘調査が実施された結果、現在の菊島は室町時代以降に造られたことが判明しました。



▲ 発掘調査風景



▲ 大沢池立石の状況

千代の古道エリアの発掘調査地分布図



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

